上矢作小学校だより

大船山

【学校の教育目標】たくましく　すこやかな　上矢作の子

第　１９　号
令和７ 年 ２ 月 ２８ 日

「別れ」を意識させる、「別れ」を教える

校長　細江　幸次

今年度もあと３月を残すのみとなりました。２月は近年にない降雪に見舞われ、通勤・通学に不安を感じる日がありましたが、特に事故などの報告もなく、とりあえずは一安心といったところです。また、カゼ・発熱などによる欠席が若干あったものの、インフルエンザなどの感染症もなく、学年末のまとめの時期を児童・職員とも全員で迎えられることをとてもありがたく思っています。

学校の締めくくりとなる３月は学習のまとめとともに、「別れ」を強く意識する時期でもあり、私はこれをきちんと教える絶好の機会でもあると考えています。

私たちの周りには様々な形態の「別れ」があります。日常の明日(次回)の再会がほぼ約束された別れから、生活環境の変化による別れや人間関係の変化による別れ、再会が不可能な別れまであります。小学校段階の子どもたちにとっては学年末の卒業や転出、異動に関わる別れの形は、まだ経験も少なく、それから後の生活に何らかの影響がある場合も意外に少なくありません。また、多くの場合、その別れを迎える時は事前にわかっているため、それに向けての準備・取組も可能となってきます。「立つ鳥後を濁さず」という言葉があるように、人との別れは一つの節目と捉え、それを迎えるまでの生活を正したり、何かひとつ目標を決めてやり抜いたりします。それは別れ行く相手への名残惜しさであったり、感謝のしるしであったり、あるいはそれまでの自分自身の言動などを振り返る機会であったりします。それらがきちんとできていない場合は、別れてしまった後に取り返しようのない後悔ということもあるのですが、これについても、ある意味、経験しておく必要があるのかもしれません。それら全部まとめた上で、将来の生活の中で生じる様々な「別れ」について上手に対応していけるようにしておく必要があると考えています。

「一期一会」という言葉に代表されるように、別れを想定して日常を過ごしていくことは自分の生活を振り返り、ある時には生活をより良くしていくことにもなっていきます。それは言葉遣いや立ち振る舞いについて考えることであったり、相手を慮る言動にもつなげることだったりします。しかし、その一方では、常に「別れ」を意識し続けて毎日の生活を送る人は恐らくいないと思います。この相反するような両者を成立させるには、ありきたりのことなのかもしれませんが、「今やるべきことをきちんとやる、やり切っていく」「自分の考えをわかりやすく周りに伝えること、仲間の話をしっかり聞くこと」に行きつくのかなと思っています。これからの１カ月の過ごし方を考えてみましょう。

３，４年生　授業参観

上矢作っ子の活躍

■第２１回恵那市こども版画コンクール　奨励賞　２年　小木曽花帆
　入選　３年　小木曽太一、４年　鈴木拓馬、５年　伊藤綾美、６年　土屋璃莉奈
■第１１回恵那市長杯スピードスケート競技会
　小学校低学年女子５００ｍ　第４位、１０００ｍ　第４位　１年　鈴木美月
　小学校高学年男子５００ｍ　第５位、１０００ｍ　第５位　４年　鈴木拓馬